



植えたフジバカマに水をやる子どもたち＝丸亀市、手島

# 「旅するチョウ」好物植栽 カブトムシ幼虫繁殖計画

丸亀市沖の手島で、京大生らによる地域活性化プロジェクト「花と昆虫の楽園キャンペーン」の活動が行われ、整備を進めている「フラワーロード」に学生や住民らがシバザクラなどを植えた。長距離の渡りをすることで知られるチョウ「アサギマダラ」の好物のフジバカマも植えたほか、伐採した竹のチップを保管していた中からたくさんのカブトムシの幼虫を確認。「花と昆虫の楽園」に向けて一歩前進した。

# 花と昆虫の楽園に

## 丸亀・手島

## 京大生と住民協力

同キャンペーンは、過疎が進行する島の再生や地域振興に向け、同市のNPO「四国夢中人」代表の尾崎美恵さん、全国各地で農業を通じた交流活動を行っている京大生、地元住民らが「塩飽部隊」の名前で昨春から取り組んでいる。

4月28日に行った活動には学生や住民、プロジェクトに関心を持つ県内外の家族連れら約60人が参加。手島港から手島自然教育センター、西浦海岸へと向かう1キロほどの道路沿いに整備しているフラワーロードで、昨秋に続いてガウラとコレオプシス、今回新たにシバザクラを約60株の区間に植えた。竹林の伐採も継続して行った。

フジバカマは、同市沖の本島でアサギマダラの飛来に取り組み、その姿を昨秋に確認した住民有志から50株提供を受け、フラワーロードに植えた。アサギマダラは毎年春と秋に日本と台湾を往復し、約2千キロもの

旅をする「旅するチョウ」で、参加者は蜜を自当てに手島にも訪れ、ふわふわと優雅に飛ぶチョウの光景を思い浮かべていた。

また、伐採した竹を肥料などにするため粉碎し、寺の境内に積んでいた竹チップの中から、子どもがカブトムシの幼虫探しに挑戦。手で少し掘るだけで大量に見つかり、「すごい！」と歓声が上がった。これを手島での子ども向けイベントの呼び物にしたり、将来的に繁殖販売につなげたりす



竹チップの中からカブトムシの幼虫を掘り出す子どもたち  
＝丸亀市、手島

尾崎さんは「まさに花と昆虫の楽園に近づいてきた。今後多くの人々の協力で、一つ一つ活動を進めていきたい」と話していた。